

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 25 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10375

研究課題名(和文) 医師・医学生の共感評価への患者視点導入の促進

研究課題名(英文) Accelerating introduction of patients' perspectives into physicians' and learners' empathy evaluation

研究代表者

高橋 徳幸 (Takahashi, Noriyuki)

名古屋大学・医学系研究科・特任講師

研究者番号：00758732

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本計画では医師の共感を患者の視点から評価する10項目の質問紙「日本語版CARE (Consultation and Relational Empathy) measure」を用い、卒前・卒後一貫して患者の視点から医師の共感を評価するための教育方略や簡略版の開発を目指した。COVID-19パンデミックにより研究環境に制限が生じたため、二つの研究設問1)共感を重視する総合診療科の研究分野の多様性に関する横断研究、2)既出日本語版CARE Measureデータを用いた簡略版検討、を再設定した。2)は10項目のうち2項目(質問6と9)が簡略版となることが示唆され、2項目版の実用化に向けた研究を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、患者の視点から医師の共感を評価する質問紙を用いた教育方略や簡略版の開発を計画した。COVID-19パンデミックにより接触環境で実施する研究計画は変更を余儀なくされた。しかし非接触下でも実施できる課題を再設定することで、共感を重視する総合診療医学の研究分野の理解に資する情報を得たことや、予備調査によって簡略版となる質問項目の候補を選定したという学術的意義のある成果が得られた。特に簡略版については実用化に向けた次の課題を見出すことができ、高齢者なども含めたより多くの患者さんに医師の共感の評価に参加してもらうための基礎的な情報を得たと言う社会的意義もあった。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to develop an educational program in order to assess doctors' empathy from the patient's perspective both pre- and post-graduation. Also, this project aimed to develop a simplified version of the Japanese version of the CARE (Consultation and Relational Empathy) measure, a 10-item questionnaire that assesses doctors' empathy from the patient's perspective. Due to limitations in the research environment caused by the COVID-19 pandemic, two research questions were redefined: 1) a cross-sectional study of the diversity of research areas in general practice, and 2) a preliminary study to explore simplified version of Japanese CARE Measure by a secondary analysis. As the two of the ten items (questions 6 and 9) could be simplified, the study was conducted to developing a simplified version of the two-item version.

研究分野：総合診療

キーワード：共感 質問紙 簡略化 妥当性検証 信頼性検証 多様性 共感の認識構造 質的研究

## 1. 研究開始当初の背景

医師の共感とは患者医師コミュニケーションの基盤となり、医師の共感とは患者満足度だけでなく治療効果にも影響する[1]。医師の共感とは、教育されなければ卒前・卒後を通じて経年低下することが知られている。よって卒前・卒後一貫して共感を育むための教育は、医学生・医師にとって、不可欠であるといえる。医学生・医師の教育のために患者の視点を導入する動きは本邦でも強まっている[2, 3]。2020年度の医師臨床研修制度の見直しの際に、卒前・卒後一貫して患者による評価を重視し、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行うことが研修評価に盛り込まれた(医師臨床研修指導ガイドライン-2020年度版-)。よって医師の共感に関して、本邦でも患者の視点をさらに反映させた教育プログラムや評価方法の構築が求められている。しかし現時点では、患者の視点を反映する卒前臨床教育プログラムや、医師の臨床実践での共感に関する評価指標は十分に確立したとはいえない。

## 2. 研究の目的

1) 患者の視点から医師の共感を評価する質問紙である日本語版 CARE (Consultation And Relational Empathy) Measure [4, 5]を、医学部5年生向けの実習プログラム(外来医療面接実習と医療面接ピア・ロールプレイ実習の融合実習)で、患者の医学生評価に使用することによる卒前教育への反映とその効果に関する質的探索である。

2) 多様な患者が評価に参加できるよう挿絵を用いて明示化し、質問項目を簡略化した Visual CARE Measure[6]に関する日本語版の開発である。

## 3. 研究の方法

(1)本研究では、外来実習と医療面接ピア・ロールプレイ実習を融合したプログラムのなかで質的研究の実施を計画した。外来実習と医療面接ピア・ロールプレイ実習を融合したプログラムは、以下の手順で行われており、このプログラムは学生に患者の語りの理解を生じさせることがわかっている[7]。外来実習：患者への外来実習責任者(プリセプター)による実習説明・同意書の記載依頼、学生単独での患者への医療面接実習(30分)、患者から学生への評価表 CARE Measure の記載導入(新規)、学生とプリセプターによる診療方針検討、学生の評価表と患者による評価表を踏まえた面接の振り返り、面接実習：配役(医師役・患者役・評価者)決定後、医師役・患者役で医療面接ピア・ロールプレイ(ビデオ録画)、ビデオ供覧、皆で医師役のコミュニケーション・臨床推論に関する議論、外来実習での指導医との議論や患者からの評価内容とその感想の共有(新規)である。

質的側面からは、外来実習で患者から CARE Measure に基づいた評価を受けることの、学生の共感認識への影響を探索することを予定した。上記の実習に参加した学生で研究参加に同意した学生に対する半構造化インタビュー(1グループ4-6人、4回程度)を行い、Steps for Coding and Theorization[8]を用いた分析を計画した。

(2)日本語版 Visual CARE Measure の信頼性・妥当性の検証は、以下のように実施することを計画した。日本語版の逆翻訳、質問項目の了解性について5-6人程度の1グループから、研究参加に同意した参加者への聴取および質問内容の修正、研究協力に同意した医療機関を受診した成人患者。医師1名あたり50名の患者から回答の入手、収集データに関する日本語版 Visual CARE Measure の信頼性・妥当性検証：Cronbachの係数(質問紙の信頼性)、探索的因子分析(質問紙の妥当性)、評価者間信頼性(質問紙の信頼性)、患者背景アンケート各項目との相関。

## 4. 研究成果

2020年に本邦に生じたCOVID-19パンデミックにより、講義・実習はオンライン環境が推奨され、対面環境を維持する場合も制限のなかで行われることになった。各医療機関を受診する外来患者についても発熱患者と非発熱患者の導線が分けられ、飛沫・接触感染に対する厳戒態勢が敷かれた上での受診となった。上記の研究は、研究参加者・対象者に対して対面で実施することが前提であり、さらに研究参加者・対象者の自由意思によって研究参加への同意が決定された。研究に参加することによって新型コロナウイルス感染症に罹患するという心理的抵抗感や恐怖感に配慮すると、研究計画通りの実施は実際的に困難になった。そこで非接触下で実施できる以下の研究に発展させた。

(1) 総合診療医学の研究分野の多様性に関する横断研究[9]

総合診療医学の研究分野は、総合診療医学だけでなくプライマリ・ケアや家庭医療、総合内科学といった分野にわたり多様なテーマが取り扱われていることは知られている。しかし日本の大学総合診療部門については、研究分野の多様性を英文原著論文の調査から把握する試みはされていなかった。そこで医学科が設置された全国82大学公式ウェブサイト大学院医学研究科、

医学部、附属病院（本院）の総合診療部門責任者名を検索した。この対象者について、2010年から2019年の10年間にWeb of Science Core Collection (WOSCC) に掲載された原著論文とその掲載誌の分野を調査した。文献調査は2020年4月に行なった。対象となった総合診療部門の研究者は全国78大学に所属する128名であった。総論文数は2923本で92分野であり、研究者別論文数の中央値は12.5本(四分位範囲3.0-30.5)であった。出版分野の最上位は一般医療・内科学(分野別論文総数3894本の12%)であった。総合診療医学の10-20%と20-30%の研究者が出版する領域は、循環器内科群と比較して一人当たりの分野別論文数は有意に多かった( $p=0.002$ ,  $p=0.009$ )。総合診療医学の研究者は同じ論文数で比較した場合、循環器内科学の研究者と比較して分野数が有意に多かった( $p<0.001$ ) (図1)。本研究は英文学術論文に基づく日本の大学総合診療部門の研究分野の特徴を初めて同定した。その特徴は、一般医療・内科学を中心にした研究分野の集合体と表現できた。その背景には、異なる研究分野に関心を持った研究者が集まった混成的 heterogeneous な集団であることと、比較的多彩な分野で出版する個人の出版行動があった。

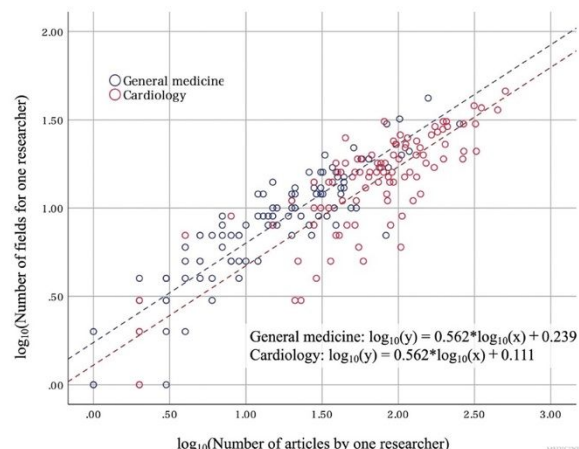


図1 各研究者の論文数と研究分野に関する散布図(対数変換)

(2) 簡略版 CARE Measure を作成するための質問項目に関する二次データ解析研究[10] Visual CARE Measure は研究対象者との接触環境でデータ収集を実施する必要があることと、想定される研究対象者が主に小児-思春期の患者であることから、COVID-19 パンデミック下での質問紙の開発が困難であった。そこで、プライマリ・ケア外来受診患者の半数を占める高齢者が評価者となる際に生じる負担の軽減や、日本語版作成の際に質問紙に生じた類似性の解消から、簡略化の必要性を認識し Visual CARE Measure の検証を提案した研究設問設定の趣旨に立ち返った。本研究では、研究の実現可能性が高く、かつ非接触下で実施できる、既存の日本語版 CARE Measure の質問10項目に関するデータを使用することで簡略版を試作することを目的とした。すなわち10項目日本語版 CARE Measure の信頼性および妥当性を検証するために収集された、総合診療医9名、患者252人分のデータ[5]に関する二次データ解析を実施した。質問紙10項目からn項目( $n=1\sim 10$ )を選び出す全ての組み合わせ(1023通り)を簡略版候補とし、質問紙の内的一貫性(クロンバック)と、基準関連妥当性として CARE Measure 10項目の総得点との相関係数を測定した。その上で簡略版を選定した。この簡略版について一般化可能性理論を用いて評価者間信頼性を求め、患者満足度に関して構成概念妥当性(Spearman's rho)を求めた。その結果、10項目の質問のなかで質問6「配慮や思いやり」と質問9「主体的に取り組めるための援助」の2項目を選択することが、最小限の質問項目で高い内的一貫性と10項目との相関を示した(クロンバック  $=0.920$ , 相関係数  $=0.979$ )。総得点は10点になった。45枚の質問紙によって、信頼性を確保して総合診療医間の CARE スコアを区別できた。患者満足度との相関に関する構成概念妥当性は、Spearman's rho  $0.706$  ( $p<0.001$ )であった。本研究によって、日本語版 CARE Measure の簡略化に関して2項目が使用できる可能性が示唆された。

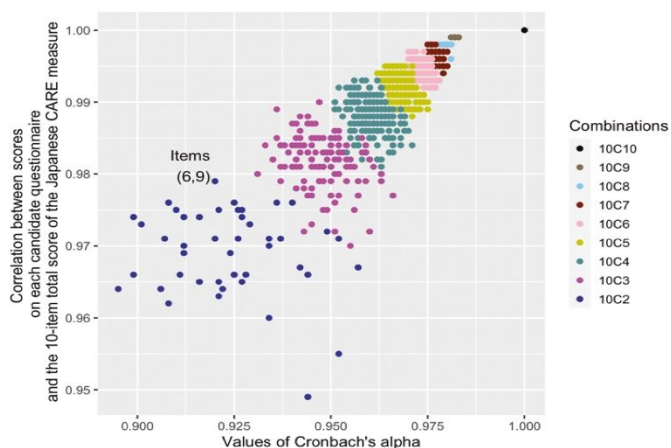


図2 簡略化質問項目候補について信頼性係数と10項目得点との相関係数に関する散布図

(3) 2項目版 CARE Measure の信頼性・妥当性検討[11] 質問紙は一般的に、質問項目が相互に影響しあって回答者の理解を促進することが知られている[12]。(2)で作成した2項目版は、10項目版で収集したデータの二次データ解析であるため、それのみでは質問紙が使用可能であることを示したことにはならない。そこで2項目版のみを用いて新たなデータを収集し、質問紙の妥当性や信頼性を検討することを本研究の目的とした。データ収集を実施した2023年はCOVID-19パンデミックの最中ではあったが、社会的に感染症対策に加えて適応が促進されていると判断し、あくまでも研究協力医師や研究対象者の自由意

思により協力を求め、研究を実施した。日本のプライマリケア環境での6診療所で勤務する総合診療医11名の研究協力を得て、研究期間中に総合診療医を受診した患者を対象とした。2項目各質問項目に関する評価不能や欠損値で表面妥当性を、2項目と10項目版のPearsonの相関係数で基準関連妥当性を検討し、2項目版総得点と患者満足度との関連性について構成概念妥当性をSpearman's rhoで検討した。信頼性係数Cronbachで内的一貫性を、一般化可能性理論によって評価者間信頼性を検討し、標準得点に関する区間推定を実施した。質問紙は347枚を解析した。評価不能および欠損値は低く、高い表面妥当性を示した。2項目と10項目の得点には強い相関があった(Pearsonの相関係数0.805,  $P < 0.001$ )。2項目得点と患者満足度には強い相関があった(Spearman's rho 0.583,  $P < 0.001$ )。2項目は適度な内的一貫性を示した(Cronbach 0.919)。しかし一定の評価者間信頼性を保つには85枚の質問紙が必要であった。標準的な得点は10点満点中7点から8点であった。日本語版CARE Measureでは、2項目版についても妥当性および信頼性が確認されたが、医師間の評価に用いるには10項目版に比較して多くの枚数が必要になるという実用性に関する課題が明らかになった。

#### (4) CARE Measureに関する書籍での紹介[13]

2023年2月に出版された書籍「医療現場の共感力(石井均編集)」は、医療現場で扱われる共感について、概念や機能、そして脳科学研究の成果などの科学的知見に加えて、様々な専門職の立場からの臨床経験が紹介されている。そのなかで、第部「共感の測定尺度」の第15章「CARE Measure」の執筆を担当した。本章では、CARE Measureの開発経緯や質問項目の説明および使用時の注意点などに加えて、共感に関する医師の自己評価と患者による他者評価には関連がないことなどCARE Measureを使った研究成果などを紹介した。

#### <引用文献>

1. Hojat, M., *Empathy and patient outcomes*, in *Empathy in health professions education and patient care*. 2016, Springer: Switzerland. p. 189-201.
2. Hojat, M., et al., *The devil is in the third year: a longitudinal study of erosion of empathy in medical school*. *Academic Medicine*, 2009. **84**(9): p. 1182-1191.
3. Neumann, M., et al., *Empathy decline and its reasons: a systematic review of studies with medical students and residents*. *Academic medicine*, 2011. **86**(8): p. 996-1009.
4. Mercer, S.W., et al., *The consultation and relational empathy (CARE) measure: development and preliminary validation and reliability of an empathy-based consultation process measure*. *Family practice*, 2004. **21**(6): p. 699-705.
5. Aomatsu, M., et al., *Validity and reliability of the Japanese version of the CARE measure in a general medicine outpatient setting*. *Family practice*, 2014. **31**(1): p. 118-126.
6. Murphy, J., S.W. Mercer, and E.A. Duncan, *A pilot study to explore the feasibility, validity and reliability of a visual version of the CARE Measure*. *International Journal of Therapy and Rehabilitation*, 2013. **20**(9): p. 460-465.
7. Takahashi, N., et al., *Listen to the outpatient: qualitative explanatory study on medical students' recognition of outpatients' narratives in combined ambulatory clerkship and peer role-play*. *BMC Medical Education*, 2018. **18**(1): p. 229.
8. 大谷, 尚., *SCAT: Steps for coding and Theorization: 明示の手続きで着しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法*. 2011.
9. Takahashi, N., et al., *Diversity of academic general medicine: A cross-sectional bibliometric study of original English-language research articles in general medicine and cardiology in Japan*. *Medicine (Baltimore)*, 2022. **101**(11).
10. Takahashi, N., et al., *A 2-item version of the Japanese Consultation and Relational Empathy measure: a pilot study using secondary analysis of a cross-sectional survey*

*in primary care*. Fam Pract, 2022.

11. 高橋 徳幸, 松 貴., 西川 弘晃, 高橋 邦彦, 青松 棟吉, 児山 俊浩, 末松 三奈, 宮崎 景, 葛谷 雅文, 佐藤 寿一, Stewart W Mercer, 伴 信太郎, *2 項目日本語版 CARE Measure の妥当性と信頼性の検討:日本のプライマリケア診療所での横断研究* in 第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会. 2024: 静岡県浜松市.
12. Streiner, D.L., G.R. Norman, and J. Cairney, *Health measurement scales: a practical guide to their development and use*. 5th ed ed. 2015, New York: Oxford University Press, NY.
13. 高橋徳幸, *CARE Measure*. 医療現場の共感力, ed. 石井均. 2023: 金芳堂.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 Suematsu Mina, Inoue Rikako, Takahashi Noriyuki, Miyazaki Kei, Okazaki Kentaro, Miyata Yasushi, Ohashi Wataru, Kuzuya Masafumi	4. 巻 25
2. 論文標題 Investigating the perceptions of career development as the Japanese regional quota medical students and graduates in A prefecture	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of General and Family Medicine	6. 最初と最後の頁 166 ~ 169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jgf2.689	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Abe Ryotaro, Okazaki Kentaro, Takahashi Noriyuki, Suematsu Mina, Kuzuya Masafumi	4. 巻 15
2. 論文標題 Impacts of "Diabetes Theater," a participative educational workshop for health care professionals, on participants: a patient empowerment perspective	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Diabetology International	6. 最初と最後の頁 307 ~ 312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13340-024-00692-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Noriyuki Takahashi, Ryo Hanajiri, Masashi Suzuki, Chise Anan, Atsushi Inagaki, Dai Kishida, Shohei Ozawa, Sho Kohri, Nobuhide Kamiya, Motoki Sato, Juichi Sato	4. 巻 85
2. 論文標題 Myelodysplastic syndrome with trisomy 8 presenting periodic fever and multiple MEFV gene variants outside exon 10: a case report	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nagoya Journal of Medical Science	6. 最初と最後の頁 195, 203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/nagjms.85.1.195	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 高橋徳幸, 中島麻梨絵	4. 巻 2
2. 論文標題 VEXAS症候群に対するルキソリチニブの治療選択肢としての可能性: 症例報告	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本免疫不全・自己炎症学会雑誌	6. 最初と最後の頁 2, 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34563/jsiadjournal.2.1_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Noriyuki、Matsuhisa Takaharu、Takahashi Kunihiro、Ban Nobutaro	4. 巻 101
2. 論文標題 Diversity of academic general medicine: A cross-sectional bibliometric study of original English-language research articles in general medicine and cardiology in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Medicine	6. 最初と最後の頁 e29072
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.00000000000029072	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Noriyuki、Matsuhisa Takaharu、Takahashi Kunihiro、Aomatsu Muneyoshi、Mercer Stewart W、Ban Nobutaro	4. 巻 39
2. 論文標題 A 2-item version of the Japanese Consultation and Relational Empathy measure: a pilot study using secondary analysis of a cross-sectional survey in primary care	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Family Practice	6. 最初と最後の頁 1169 ~ 1175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/fampra/cmhc034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Okazaki Kentaro、Takahashi Noriyuki、Shingaki Tomotaka、Perez-Nieves Magaly、Stuckey Heather	4. 巻 16
2. 論文標題 Key factors for overcoming psychological insulin resistance: A qualitative study in Japanese people with type 2 diabetes	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Primary Care Diabetes	6. 最初と最後の頁 411 ~ 416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pcd.2022.02.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 高橋徳幸、佐藤寿一	4. 巻 17
2. 論文標題 病院総合診療医の診療対象になりうる新しい成人発症自己炎症性疾患: VEXAS 症候群	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本病院総合診療医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 588-589
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwatsuki Junko, Kondo Takeshi, Takahashi Noriyuki, Takami Hideki, Nishigori Hiroshi, Bustos-Villalobos Itzel, Aleksic Branko, Kasuya Hideki, Ban Nobutaro, Yagi Tetsuya, Skokauskas Norbert	4. 巻 Volume 12
2. 論文標題 Problem-Based Learning in Child and Adolescent Psychiatry: A Perspective from Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Advances in Medical Education and Practice	6. 最初と最後の頁 1329 ~ 1335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/AMEP.S333958	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 野田 幸裕、末松 三奈、高橋 徳幸、岡崎 研太郎、淵田 英津子、阿部 恵子、半谷 眞七子、?見 陽、葛谷 雅文	4. 巻 5
2. 論文標題 コロナ禍において実施したオンラインでの模擬患者家族参加型多職種連携教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬学教育	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24489/jjphe.2021-027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suematsu Mina, Okumura Kenichi, Hida Takeshi, Takahashi Noriyuki, Okazaki Kentaro, Fuchita Etsuko, Abe Keiko, Kamei Hiroyuki, Hanya Manako	4. 巻 12
2. 論文標題 Students' perception of a hybrid interprofessional education course in a clinical diabetes setting: a qualitative study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Medical Education	6. 最初と最後の頁 195 ~ 204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5116/ijme.6165.59e0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋 徳幸、末松 三奈、岡崎 研太郎、葛谷 雅文	4. 巻 51
2. 論文標題 名古屋大学地域枠医学生向け「地域医療セミナー」のWeb開催 新入生への配慮も含めたその意義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 272 ~ 273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_272	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 岡崎 研太郎、高橋 徳幸、末松 三奈、葛谷 雅文	4. 巻 51
2. 論文標題 名古屋大学地域枠医学生向け「地域病院臨床実習」のオンライン実施計画 準備ワークショップのWebコンテンツ化を含めて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 290 ~ 291
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_290	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuki Yoshikawa, Takaharu Matsuhisa, Noriyuki Takahashi, Juichi Sato, Nobutaro Ban	4. 巻 82
2. 論文標題 A survey of Japanese physician preference for attire: what to wear and why	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nagoya Journal of Medical Science	6. 最初と最後の頁 735 ~ 745
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/nagjms.82.4.735	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suematsu Mina, Takahashi Noriyuki, Okazaki Kentaro, Fuchita Etsuko, Yoshimi Akira, Hanya Manako, Noda Yukihiro, Abe Keiko, Kuzuya Masafumi	4. 巻 12
2. 論文標題 A novel online interprofessional education with standardised family members in the COVID-19 period	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Medical Education	6. 最初と最後の頁 36 ~ 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5116/ijme.6043.8be0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuhisa Takaharu, Takahashi Noriyuki, Takahashi Kunihiro, Yoshikawa Yuki, Aomatsu Muneyoshi, Sato Juichi, Mercer Stewart W., Ban Nobutaro	4. 巻 22
2. 論文標題 Effect of physician attire on patient perceptions of empathy in Japan: a quasi-randomized controlled trial in primary care	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Family Practice	6. 最初と最後の頁 59 ~ 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12875-021-01416-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takahashi Noriyuki, Takeichi Takuya, Nishida Tetsuya, Sato Juichi, Takahashi Yasuhiro, Yamamura Masahiro, Ogi Tomoo, Akiyama Masashi	4. 巻 73
2. 論文標題 Extensive Multiple Organ Involvement in VEXAS Syndrome	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Arthritis & Rheumatology	6. 最初と最後の頁 1896 ~ 1897
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/art.41775	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 高橋 徳幸, 松久 貴晴, 西川 弘晃, 高橋 邦彦, 青松 棟吉, 児山 俊浩, 末松 三奈, 宮崎 景, 葛谷 雅文, 佐藤 寿一, Stewart W Mercer, 伴 信太郎
2. 発表標題 2項目日本語版CARE Measureの妥当性と信頼性の検討:日本のプライマリケア診療所での横断研究
3. 学会等名 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 村松 瑛心, 高橋 徳幸, 青松 棟吉, 末松 三奈, 宮崎 景
2. 発表標題 総合診療科指導医の共感に対する認識構造の解明
3. 学会等名 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 高橋徳幸, 末松三奈, 市原亮介
2. 発表標題 専門医共通講習:地域医療
3. 学会等名 第113回日本病理学会総会 日本病理学会 (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 高橋 徳幸, 松久 貴晴, 高橋 邦彦, 青松 棟吉, Mercer Stewart, 伴 信太郎
2. 発表標題 21項目日本語版CARE Measureの開発：二次データ解析
3. 学会等名 第13回日本プライマリ・ケア連合学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋 徳幸
2. 発表標題 医療面接の意義と、医学教育における医療面接教育の現状
3. 学会等名 第17回公益社団法人日本鍼灸師会全国大会 in 愛知 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋 徳幸, 鈴木 紘平, 末松 三奈, 岡崎 研太郎, 宮崎 景, 葛谷 雅文
2. 発表標題 日本で家族性地中海熱を患う患者の病の経験：体験録の分析による質的研究
3. 学会等名 第6回日本免疫不全・自己炎症学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋徳幸、中島麻梨絵
2. 発表標題 VEXAS症候群の治療選択肢としての ルキシソリチニブの可能性：症例報告
3. 学会等名 第5回日本免疫不全・自己炎症学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澁田英津子, 岡崎研太郎, 末松三奈, 高橋徳幸, 野田幸裕, 吉見陽, 内山靖, 池松裕子, 玉腰浩司, 山口みほ, 阿部恵子
2. 発表標題 模擬患者参加型多職種連携教育の“これまで”と“これから”
3. 学会等名 日本看護学教育学会第31回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増田綾香, 高橋徳幸, 大谷尚, 末松三奈, 岡崎研太郎, 葛谷雅文
2. 発表標題 地域で研修医向け勉強会に関わる医師が研修医教育に関わり続ける理由：動機付け理論による質的研究
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Daiki Ando, Mina Suematsu, Noriyuki Takahashi, Kentaro Okazaki, Etsuko Fuchita, Manako Hanya, Keiko Abe, Yusuke Suzuki, Masafumi Kuzuya, Morag McFadyen, Sundari Joseph, Lesley Diack
2. 発表標題 Differences in family carer 's awareness of dementia caring support between Scotland and Japan
3. 学会等名 SAPC ASM 2020 - cancelled due to pandemic (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuki Sahashi, Noriyuki Takahashi, Mina Suematsu, Kentaro Okazaki, Masafumi Kuzuya
2. 発表標題 Influence of cognitive dissonance on clinical judgment of a medical student playing the role of a doctor in an educational program combining ambulatory clerkship and peer role-play: A qualitative study
3. 学会等名 SAPC ASM 2020 - cancelled due to pandemic (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satoshi Yamada, Kentaro Okazaki, Mina Suematsu, Noriyuki Takahashi, Masafumi Kuzuya
2. 発表標題 The effectiveness of “Diabetes Theatre”, an educational workshop of diabetes care, on its theatre staffs toward empowerment: a qualitative study
3. 学会等名 SAPC ASM 2020 - cancelled due to pandemic (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mina Suematsu, Noriyuki Takahashi, Kentaro Okazaki, Etsuko Fuchita, Wataru Ohashi, Keiko Abe, Masafumi Kuzuya
2. 発表標題 Challenge of implementation of a patient involvement IPE programme in fourth year medical students
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田 聡、岡崎 研太郎、末松 三奈、高橋 徳幸、葛谷 雅文
2. 発表標題 医療者教育ワークショップ「糖尿病劇場」の医療者劇場スタッフに生じる学び エンパワーメントに向けて
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐橋 一輝、高橋 徳幸、末松 三奈、岡崎 研太郎、葛谷 雅文
2. 発表標題 外来実習に医療面接ピア・ロールプレイを融合した実習での、医師役学生への認知的不協和の影響 質的研究
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安藤大貴、末松三奈、高橋徳幸、岡崎研太郎、半谷眞七子、淵田英津子、鈴木裕介、葛谷雅文
2. 発表標題 スコットランドと日本における介護支援に対する認知症家族介護者の認識
3. 学会等名 第62回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉川 由貴、松久 貴晴、高橋 徳幸、伴 信太郎、佐藤 寿一
2. 発表標題 家庭医の診察衣の実際と理想 - 選択理由を含めた診療現場ごとの比較 -
3. 学会等名 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 淵田英津子、岡崎研太郎、末松三奈、高橋徳幸、野田幸裕、吉見陽、内山靖、池松裕子、玉腰浩司、山口みほ、阿部恵子
2. 発表標題 模擬患者参加型多職種連携教育の“これまで”と“これから”
3. 学会等名 日本看護学教育学会第31回学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 石井均（分担執筆 高橋徳幸）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金芳堂	5. 総ページ数 239
3. 書名 医療現場の共感力（第15章 CARE Measure）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

CARE Measure日本版サイト  
<https://caremeasure.meidai-soushin.net>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伴 信太郎  (Ban Nobutaro)  (40218673)	愛知医科大学・医学部・特命教育教授   (33920)	
研究分担者	松久 貴晴  (Matsuhisa Takaharu)  (80782101)	名古屋大学・医学系研究科・客員研究者   (13901)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	末松 三奈  (Suematsu Mina)  (10728744)	名古屋大学・医学系研究科・特任講師   (13901)	
研究協力者	宮崎 景  (Miyazaki Kei)  (50817690)	名古屋市立大学・医薬学総合研究院(医学)・教授   (23903)	
研究協力者	高橋 邦彦  (Takahashi Kunihiko)  (50323259)	東京医科歯科大学・M&Dデータ科学センター・教授   (12602)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐藤 寿一  (Sato Juichi)  (10285223)	名古屋大学・医学部附属病院・病院教授    (13901)	
研究協力者	村松 瑛心  (Muramatsu Eishin)	名古屋大学・医学部医学科・学生    (13901)	
研究協力者	西川 弘晃  (Nishikawa Hiroaki)	名古屋大学・医学部医学科・学生    (13901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関